

(様式1)

令和5年度 京都府立工業高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)実施段階

学校経営方針(中期経営目標)	5年度の成果と課題	学校経営の重点(短期経営目標)
<p><b>1 本校「校訓」と「教育目標」を根幹とし、高度技術化社会・国際化時代に対応した工業教育を推進し、国家及び社会の有為な形成者としての人間を育成する。</b></p> <p>(1) 学習指導の充実による学力の向上と進路を切り拓く指導を推進する。</p> <p>(2) 自他の生命や人権を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するなど豊かな心を育む指導を推進する。</p> <p>(3) 国際化、高度情報化、技術革新に対応した教育など社会の変化に対応する指導を推進する。</p> <p><b>2 小中学校及び大学、保護者、地域社会及び関係機関との連携を強化し、特色ある教育活動を展開することにより開かれた学校づくりを推進する。</b></p> <p>(1) コミュニティスクール(学校運営協議会)制度を生かし、目標やビジョンを、保護者や地域社会と共有する。</p> <p>(2) 企業・大学等との連携を深め、広く社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(3) 心身ともに健全な生徒を育てるため、学校のプラットフォーム機能を拡充させ、関係諸機関との連携強化を図る。</p> <p>(4) 特色ある教育活動を工夫し、その成果を積極的に情報発信することで「選ばれる工業高校」をめざす。</p>	<p><b>1 成果</b></p> <p>(1) 落ち着いて学校生活を送ることができている。放課後を活用して学力向上、資格取得促進・検定に向けての学習を行い、今年度も難関資格、検定に合格者を出すことができた。</p> <p>(2) 学習指導については、教員の学習用ツール使用が定着化し、課題配信やアンケート実施など生徒個々の学習状況を把握することで個に応じた指導が行えた。</p> <p>(3) 就職については、コロナ5類移行もありさらに求人件数が増え、約1700件の求人があった。一次内定率は約94%と昨年度を上回り、1月までに全員が内定となった。進学については、学科、学年部及び進路指導部が一体となって指導を続け、総合型・学校推薦型の選抜で、国公立大学に6名が合格した。また、全学年に起業家教育の講演を行うことができた。</p> <p>(4) 安全衛生管理とその教育の徹底を図り、実習や課外活動における大きな事故はなかった。また、登校時の自動車の校内乗り入れ時の交通安全については、生徒及び送迎の自動車の動線を整理することで一定の効果が得られた。</p> <p>(5) コロナ禍前と同じように各種大会・コンテストが行われ、工業系では、京都府ロボット競技大会で準優勝、WRO京都大会で優勝した。また、部活動においては、昨年に引き続き卓球部の団体での近畿大会出場、アーチェリー部が近畿大会、選抜大会に出場するなど活躍した。</p> <p>(6) ものづくり体験や出前授業については、今年度も近隣中学校に出向き生徒が主体となって交流することができた。また、昨年に続き、地元企業の業務改善につながるシステム開発を行い、生徒の企画力、設計、製作技術が向上した。さらに、吹奏楽部がアメリカの学校と対面での合同演奏を実施したり、英語科の授業では台湾の学校とオンラインによる国際交流を行い、海外への興味を持たせることができた。</p> <p><b>2 課題</b></p> <p>(1) 近年の資格検定の試験・検定料高額化により、受検者数が減っている状況は変わらず、その中で全体の合格者数も減っている。来年度、3学年ともタブレット端末使用となるので、ICT機器のさらなる活用の研究を進め、資格取得の合格者数アップとともに「分かりやすい授業」に繋げていく必要がある。</p> <p>(2) 就職は、求人件数は大幅に増加している一方、就職希望先が決められず一次選考を受けられない生徒もいた。進学は、国公立大学受験者は増加したが、合格者数は伸びなかった。キャリア教育と共にさらに対策を講じる必要がある。</p> <p>(3) 登下校時の事故も数件あったことから、交通安全教育に一層力を入れる必要がある。また、いじめの防止・解消など、いのちを守る教育について引き続き充実させ人権意識を向上させる。部活動の加入率も伸び悩んでおり対策を講じたい。</p> <p>(4) 令和6年度選抜では、2年連続志願者数は増加したものの、定員割れは続いている。特に、女子の志願者数が減っており、広報活動について工夫を行い、女子生徒の希望者を増やすことに努めたい。</p>	<p><b>1 学力向上の取組</b></p> <p>(1) 基礎学力を定着させ、Society5.0の社会に応用できる知識・技術・技能を獲得させる。</p> <p>(2) 発達段階、学習段階に合わせた「わかりやすい授業」「わかる授業」づくりに取り組む。</p> <p>(3) 資格・検定合格等を通して、こまめな達成感と自信を持たせる。</p> <p>(4) 学習用ツールとICT機器の効果的な活用により、個に応じた「学びの最適化」を図る。</p> <p>(5) 工作機器を活用した技術力向上を図る。</p> <p><b>2 キャリア教育の充実</b></p> <p>(1) キャリアパスポートを活用し、自らの将来を考える機会を増やす。</p> <p>(2) 企業や大学等との連携を深め、さらに効果的な職業教育の在り方を工夫・開発する。</p> <p>(3) 策定した「3年間のキャリア学習計画」の検証、再設計を行う。</p> <p>(4) 時代に即した組織的な進学・就職指導体制を再構築する。</p> <p>(5) 起業家教育や異年齢交流など目新しい行事を計画、実施する。</p> <p><b>3 安心・安全の学校</b></p> <p>(1) マナーや規範意識を高め、いじめ等の問題行動を防止する。</p> <p>(2) 人権を尊重し、安心・安全な学校生活を保障する。</p> <p>(3) 部活動を活性化させ、心身ともに健全な生徒の育成をめざす。</p> <p>(4) 自他のいのちを守る教育の充実・徹底を図る。</p> <p>(5) 教職員研修により、新しい生徒指導提要の活用推進を図る。</p> <p><b>4 魅力ある学科づくり</b></p> <p>(1) 生徒・教職員が一体となり「おもしろまじめ」な学校生活を共に創り上げる。</p> <p>(2) SDGs(持続可能な開発目標)実現のための教育活動を具現化させる。</p> <p>(3) 学校の魅力をわかりやすく地域にアピールするため、学科ごとのコンセプトやその違いを明確化させる。</p> <p>(4) 小中学生向けの体験活動を強化し、高い目的意識を持った生徒募集につなげる。</p> <p>(5) 工業の魅力が伝わるよう、男女共同参画型の広報活動を行う。</p>

評価領域	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価		成果と課題
学力向上	基礎学力の定着 知識・技術・技能獲得	教科間の連携を密にし、教科等横断的な視点で生徒の状況を把握、各教科の基礎学力向上に重点をおいた授業を実践する。 基礎的な言語能力向上のため、1年生国語の少人数制授業を実施する。	A B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力が低い生徒に対して、普通科目を中心に放課後等を利用して、個に応じた指導を行うことができた。</li> <li>1・2年生に対してタブレット端末や学習支援ツールを活用して家庭学習や放課後の時間を利用した個別最適化した指導を実践することができた。</li> <li>教科間や教員間でICT機器の活用方法を共有し、校内での効果的な活用を更に研究していく必要がある。</li> </ul>
	段階に応じた「わかりやすい」「わかる授業」づくり	習熟度別授業や少人数制授業の講座数を整理し、放課後や学習支援ツールの活用と組み合わせることで、個の特性や力量に応じた指導を実践する。	A	A	
	資格・検定合格、こまめな達成感と自信	放課後の活用や授業と連携させることにより、基本的な資格・検定の合格率を上げる。 基礎的な資格の合格やキャリア教育と連携して、難関資格取得に向けてのモチベーションアップを図る。	B A	A	
	学習用ツール、ICT機器の効果的な活用	ロイロノートやスタディサプリ等の学習用ツールを活用した授業を全ての教科で実践するとともに課題提出や評価にも効果的に活用する。 ICT機器を活用し、授業の個別最適化を進める。	A A	A	
	工作機器の活用	1年生及び2年生は、ICT機器を活用し学びの共有ができる様に工夫した授業展開を実施することで観点別評価に繋がる教科指導を実践する。また、新規導入された機器を活用し、より深く発展した工業教育を展開する。	A	A	
	キャリア教育の充実	キャリアパスポート活用など将来を考える機会	スタディサプリ、ロイロノート等を活用したキャリアパスポートの作成ができるように指導する。 学習計画に基づいたキャリア学習を実施し、自らの将来の進路を主体的に選択できるよう指導する。	B A	
企業・大学連携と効果的な職業教育		インターンシップ、企業・大学等の見学や説明会の実施、課題研究等で地元機関と連携することで職業教育の充実を図る。 大学訪問を行い、大学の研究や入試に関わる情報を収集し、進学希望者の希望進路実現を目指す。	A A	A	
キャリア学習計画検証と再設計		策定した「3年間のキャリア学習計画」の検証をし、生徒の実態にあわせた計画を再構築する。	A	A	
組織的な進学・就職指導体制の再構築		学年、学科、学校全体での進路行事の計画を立て、学校体制として組織的な進路指導を行う。 現在の進学・就職指導体制を見直し、時代に即した新たな進路指導体制を構築する。	A A	A	
異年齢交流行事の計画		就職・進学した卒業生や進路を内定させた3年生に進路講話を依頼するなど、下級生が先輩の経験談や助言を聞くことにより、自らの将来を考える参考にさせる。	A	A	
安心・安全の学校づくり		マナー規範意識向上といじめ等の防止	生徒会と協力し、歩きスマホ撲滅や挨拶運動等のマナーキャンペーンを実施する。 毎月の問題行動調査とともに生徒観察や情報収集を行い、いじめ対策会議を中心として未然防止・早期対応に努める。	A A	A
	人権尊重と安心・安全な学校	各学年で人権学習を実施し、自他の生命や人権を尊重する精神を涵養する。 部長訓話、HR指導、HR掲示等で貴重品管理や自転車の施錠等の指導を行い、防犯意識を高める。	A A	A	
	部活動の活性化	第1学年部と連携をとり、入部体験や部活動紹介をとおして入部率を高める。	B	B	
	自他のいのちを守る教育の充実・徹底	安全点検の更なる充実を図り校内に潜む危険箇所の把握と改善に努め、性教育及び薬物乱用防止教室等の講演会を通して自らと周囲に対しての最大限のいのちを守る教育の徹底を図る。	A	A	
	生徒指導提要の活用推進	生徒指導提要の理解を深めるために教職員研修を行う。	A	A	
	教育及び広報活動の推進	おもしろまじめな学校	生徒にとっての「おもしろいこと(実技、資格検定取得、部活動等)」を「まじめ」に続けられるようサポートする。	A	A
SDGs 実現への教育		SDGsの17のゴールと学習内容を紐付け、生徒に意識させながら学習に取り組ませる。また、答えのない課題に取り組む場面で、その課題が各ゴールとどのように関連しているか意識させ継続的に取り組ませる。	B	B	
学科コンセプト明確化		今後必要とされる「力」を明確にし、各学科で「どのような力が身に付くか」、その力を「将来どのように活用できるか」を確認しながら授業・実習を進める。また、そのコンセプトがわかる動画を発信する。	A	A	
目的意識を持った生徒の募集		各種説明会を実施すると同時に、動画配信も活用し工業高校の良さを常に発信する。 体験型の説明会を計画し、入学希望者が可能な限り自己の興味に沿った学科を選択できるように工夫する。	A A	A	
工業の魅力が伝わる広報活動		ホームページや動画配信等を活用して、「ものづくり」のおもしろさや資格検定取得・部活動にまじめに頑張る生徒や学校の雰囲気を伝える。	A	A	
学校関係者評価委員会による評価	府立工業高校の生徒を採用したいができないという声を多く聞いている状況から判断して工業高校の地域での評価は高い。校区が広すぎて地元意識が薄いと思われる部分もある。あまりカリキュラムの枠にとらわれず、そこからはみ出すような能力の芽も育てて伸ばして欲しい。教員の研修の機会を今以上に増やせる予算面も考えてほしい。委員としても北部地域の工業高校の充実を強く求めていきたい。				
次年度に向けた改善の方向性	ICT機器を授業だけでなく資格・検定取得にも活用し、合格者数の増加を目指す。5年先・10年先を見据えた教育課程を考え、企業・地域・行政とも連携し次の時代の人材育成を行っていく。本校進学後の将来像がイメージしやすいよう、学校の取り組みを今よりもっと外部に発信し生徒募集に繋げる。				